

(様式2)

令和 4 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570600948		
法人名	株式会社 加治川の里		
事業所名	グループホーム加治川の里		
所在地	新潟県新潟市向中条2843-1		
自己評価作成日	令和4年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaipokensaaku.niigata.go.jp/15/index.php?action_kouhyou_detail_1_2017_022_kami=true&amp;ji_gyosyoCd=1570600948-00&amp;PrefCd=15&amp;VersionCd=022">http://www.kaipokensaaku.niigata.go.jp/15/index.php?action_kouhyou_detail_1_2017_022_kami=true&amp;ji_gyosyoCd=1570600948-00&amp;PrefCd=15&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県介護福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2
訪問調査日	令和4年10月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

稲作の農地と楡形山脈に囲まれた地域に位置し、季節の移り変わりを自然と感ずることができる開設18年目のグループホームです。中庭には畑や果樹があり、収穫や調理作業を通して季節や昔のことを思い出したり、共同作業を通してホームでの仲間作りができるようになっています。ユニットから見える中庭からも季節を感じ、農村地帯の幼いころから見慣れた稲作景色眺めながら、穏やかな生活を各々のペースで過ごしています。

今まで取り組んだ地域活動やご家族様参加の新年会などがコロナの影響で中止になりましたが、ご近所のご厚意で今年も梅を頂いたり、傾聴ボランティアが窓越し訪問をしてくださったりと少ない機会でしたが継続した繋がりがあり、コロナ後、また新たに地域活動に取り組むを行いたいと思います。

ホームでは看護師が勤務し協力医との連携し利用者様の健康管理や医療的なケアを行い、最後までホームで過ごす看取りケアもおこなっています。そのためには日頃の利用者様を中心としたご家族様やホームと医療の円滑な関係の構築が重要であり面会や電話、手紙などで日頃のエピソードを交えながら利用者様のご家族様との関係を大切にしています。ご本人とご家族様、医療と介護が連携し支える体制を通して職員が学ぶことが多くあります。さらなる向上を目指し日々励んでいます。

私たち職員が利用者様と生活を共にする時間はかけがえのない時間だと考えます。ここで出会えたご縁を大切に利用者様や家族様がグループホーム加治川の里に入居して良かったと思っただけのホームを目指しています。弊社理念である「感謝の気持ちに真心こめて」を職員ひとり一人が心に描きながら、思いを込めて支援を行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ゆたかな自然環境に恵まれた安心できる生活の場  
事業所は田畑や緑濃い山々が利用者の目の前に広がり、所内の中庭にも花や柿の木、野菜畑が作られており今年で開設18年目を迎えた。職員は看取りを含めた安心できる環境づくりを常に心掛けている。コロナ禍の中で家族の面会が難しい時もあるが、毎月家族へお手紙とともに、少しでも事業所内での様子が家族に伝わるよう一人一人写真と利用者の様子のわかる言葉を添え、居室担当が直接書いて伝えている。家族とのオンライン面会や窓越し面会等もあり家族からは様子がわかり安心と好評を得ている。また、畑の収穫や干し柿づくり、手作り梅ジュース等、楽しみが増えるような支援を職員と一緒に工夫し家族から好評を得ている。

○その人らしい暮らしを続けるための支援  
本年6月の集中豪雨で浸水しそうになり何とか免れたがその後水が引かず大変苦労した。その経験から排水ポンプを購入し、8月の豪雨時には対応できたとのことである。また定期的に避難訓練も実施しているが、大きな車の運転に不慣れな人、運転できない人が夜間帯に勤務した場合や避難拒否の利用者の対応などの問題点も浮き彫りとなり、今後の検討課題として安心安全に繋げる努力を惜しまない対応に努めている。避難時に持ち出す荷物は玄関の分かりやすい所に備えてあり、保険証の記号・番号が記載されたりリストも完備されている。

○医療や終末期に向けた支援  
協力医が利用者の多くのかかりつけ医であり、常勤の看護師と連携の下、適切な医療が受けられている。精神科の受信診時などには、最近の食事、体重や日々の様子を記載した「状況報告書」を家族に依頼し薬の変更や関わりの指導などが記述され返信される。それを基に職員間でケアの話し合いが持たれるなど工夫がみられる。また今年に入って何名かの看取りがあり、多くの職員が関わりを持ち経験を積んで成長したとのことである。コロナ禍で面会の機会がなかなか持てない中、家族・親戚が看取りの場でやっと席と一緒にできたこと、その感謝と喜びの声も寄せられており、事業所の地域に根付いた活動の原点と努力が伝わってくる。